

ふるさと探訪

第27回 トンカカはん



トンカカはんは、毎年8月19日の夜、石田の闇岡神社の境内で踊り継がれている盆踊りです。

踊りの由来は、天正13(1585)年、豊臣秀吉の四国攻略の先鋒として小早川隆景の総勢三万余騎が押し寄せた際、道前の守備

軍の総大将金子備後守元宅が僅か四千人足らずでこれを迎え討ち、氷見の高尾城にこもり応戦しましたが及ばず、野々市ヶ原に討って出て、全員が討死をしまし

▶ 昨年の夏彩祭での踊り



た。戦いが終わって小早川隆景は、鎧の上に法衣をまとい、僚友、金子備後守の亡骸に合掌し「弔い舞」を舞い、家来たちもまた陣太鼓をたたきながら、とめどなく涙を流し、その涙は鎧の袖に浸みたことから浸鎧(しんがい)節といひ伝えられています。

また、トンカカはんとは、浸鎧節の踊りの際に打ち鳴らす太鼓の陰陽のリズムが「トンカカ、トンカカ」と聞こえることから、この踊りを「トンカカはん」と呼ぶようになったと伝えられています。

この踊りは、郷土民踊の中

でも他に見られぬ伝統と独特の形式を持ち、無形文化財として大切に保存すべきもので、現在は吉井トンカカはん保存会、多賀地区トンカカはん保存会の人々により保存、伝承されています。

また、昭和35年には全国民俗芸能大会に参加し優勝。文部省および文化財保護委員会より表彰されています。

■住所 石田597-1
■駐車場 なし

